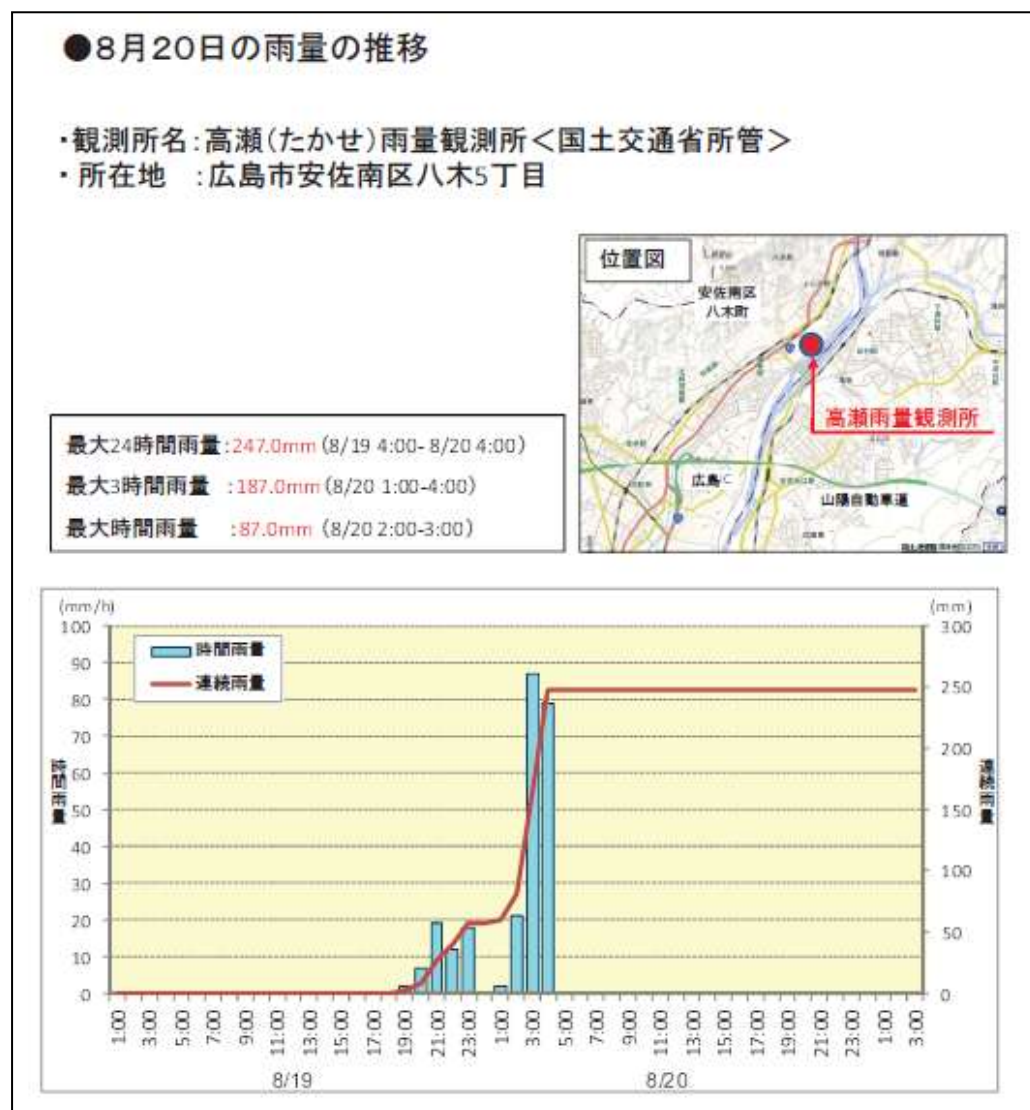


平成 26 年広島県大雨災害救援活動

平成 26 年 8 月 19 日（火）夕方から降り始めた雨は、21 時頃、猛烈な豪雨と落雷を伴った。その後、一旦小康状態となったが、8 月 20 日（水）午前 1 時過ぎから雨が降り始め、3 時頃には再び猛烈な豪雨と落雷を伴った。

これらの「バックビルディング現象」と呼ばれる特異な気象状況により、広島市安佐北区、安佐南区を中心に土石流やがけ崩れなどの土砂災害が多数発生した。

※国土交通省 HP より（9/1 現在）



平成 26 年広島県大雨災害救援活動



広島県は 8 月 20 日（水）、広島市への災害救助法の適用を決定。

日本赤十字社広島県支部では、救護班を派遣し、消防、警察、陸上自衛隊と協力し、
救護活動を行った。

【被害状況（平成 26 年 9 月 19 日現在）】

人的被害		住家被害	
死 亡	7 4 名	全 壊	1 3 3 棟
重 傷	8 名	半 壊	1 2 2 棟
軽 傷	3 6 名	一部損壊	1 7 5 棟
		床上浸水	1, 3 0 2 棟
		床下浸水	2, 8 2 9 棟



平成 26 年広島県大雨災害救援活動

長期化が予想される救護活動に対し、日本赤十字社広島県支部は、県内だけでなく、中国・四国各県支部へ 8 月 20 日から 9 月 2 日まで救護班の派遣を要請。

DMA T 1 班、救護班 16 班、延べ 218 名を被災地へ派遣した。

D M A T	第 1 班	広島県支部（広島赤十字・原爆病院）	9 名
救 護 班	第 1 班	広島県支部（広島赤十字・原爆病院）	9 名
	第 2 班	広島県支部（広島赤十字・原爆病院）	9 名
	第 3 班	広島県支部（庄原赤十字病院）	1 1 名
	第 4 班	広島県支部（広島赤十字・原爆病院）	6 名
	第 5 班	広島県支部（三原赤十字病院）	8 名
	第 6 班	広島県支部（広島赤十字・原爆病院）	5 名
	第 7 班	岡山県支部（岡山赤十字病院）	1 3 名
	第 8 班	鳥取県支部（鳥取赤十字病院）	9 名
	第 9 班	山口県支部（山口赤十字病院）	9 名
	第 1 0 班	愛媛県支部（松山赤十字病院）	1 1 名
	第 1 1 班	島根県支部（松江赤十字病院）	1 0 名
	第 1 2 班	香川県支部（高松赤十字病院）	1 1 名
	第 1 3 班	広島県支部（広島赤十字・原爆病院）	5 名
	第 1 4 班	広島県支部（庄原赤十字病院）	8 名
	第 1 5 班	岡山県支部（岡山赤十字病院）	9 名
	第 1 6 班	高知県支部（高知赤十字病院）	9 名



平成 26 年広島県大雨災害救援活動

8月20日（水）、安佐北区可部東6丁目。倒壊家屋内に取り残された被災者2名の救助にあたる日赤DMAT。

72時間の壁。災害による倒壊家屋等からの人命救助の場合、災害発生から72時間が経過すると生存率が急激に低下すると言われる。

刻一刻と過ぎる時間。二次災害発生の危険性がある中、限られた医薬品、医療資機材を用いて、消防、警察と共に懸命な救護活動が行われた。



細く、急な上り坂に加え、流れる土砂による悪路。現場までは、たどり着くのも困難な状況であった。

平成 26 年広島県大雨災害救援活動



8 月 21 日～9 月 2 日にかけて、救護班計 16 班による避難所での巡回診療が行われた。
日々増加する避難者に対し、可部小学校を拠点に、24 時間体制で診療にあたった。

【巡回診療先】

安佐北区	大林小学校
	三入小学校
	三入東小学校
	可部小学校
	上町屋会館
安佐南区	八木小学校

【取扱い患者数】

計 308 名

【こころのケア】

計 90 名



平成 26 年広島県大雨災害救援活動

安佐北区（可部小学校、三入東小学校）、安佐南区（八木小学校）にて巡回診療を行う
広島赤十字・原爆病院、庄原赤十字病院、三原赤十字病院、中・四国各県支部から派遣された
救護班。



平成 26 年広島県大雨災害救援活動

赤十字防災ボランティアと協力し、救援物資の搬出を行う支部職員。

発災当日、多くの救援物資を避難所へ送り届け、医療だけでなく、

物資の面においても被災者をサポートした。

緊急セット



安眠セット



【救援物資輸送状況】

輸送先	毛布	緊急セット	安眠セット
可部小学校	120	60	—
三入小学校	30	13	—
三入東小学校	40	15	—
大林小学校	—	14	—
梅林小学校	—	—	70
安佐南区役所	920	420	—
合 計	1, 110	522	70



平成 26 年広島県大雨災害救援活動

 日本赤十字社 広島県支部
Japanese Red Cross Society Hiroshima Prefecture Branch



平成 26 年広島県大雨災害救援活動

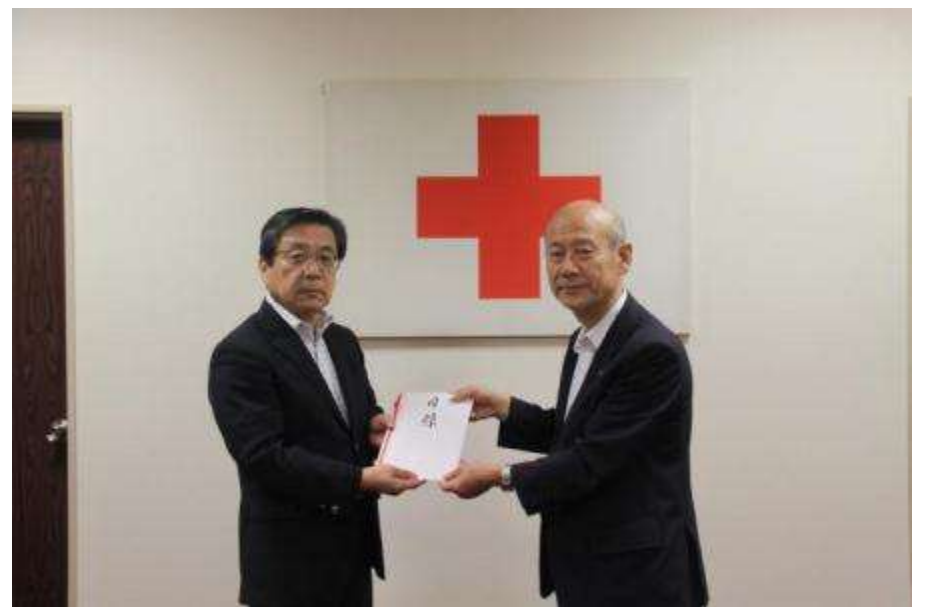
この土砂災害の被災者に対し、全国から多くの義援金が寄せられた。

「広島市」（以下、市）と日本赤十字社広島県支部を含む「広島県大雨災害義援金配分委員会」（以下、県配分委員会）に届いた義援金は 9 月 13 日（土）までに約 21 億 8,000 万円に上り、全額が現金で被災者の手に渡ることとなる。

市は、最大約 5,000 世帯が被災したと概算。第 1 次配分として、1 世帯当たり一律 10 万円を配ることを決めた。

（市の 2 億 5,000 万円と県配分委員会からの 2 億 5,000 万円の計 5 億円を原資とする。残りの義援金は 2 次配分以降に活用される。）

「迅速」「透明」「公平」が災害義援金配分の三原則とされる。日本赤十字社広島県支部では、被災者の生活再建の一助となるよう、今後も継続した支援に努める。



【広島土砂災害義援金の流れ】

